
CLC 聖書基礎講座

CLC Basic Course

Christian Life Class 2017-RN001

日本チャーチオブゴッド教団
東京ライトハウスチャーチ

目次

聖書を学ぶにあたって	・・・4
第1課 聖書	・・・12
第2課 真実の神	・・・22
第3課 人間	・・・28
第4課 救い主イエス・キリスト	・・・36
第5課 教会	・・・41

目次

第6課	聖霊	・・・48
第7課	集会出席	・・・56
第8課	祈り	・・・63
第9課	伝道・奉仕	・・・70
第10課	献金	・・・77

聖書を学ぶにあたって

◆大切な3つのこと

《1》聖書とは

- 聖書は、神から人に与えられた神ご自身のことば
- 神の御心とご計画が記された書物
- 聖書を読むことは、神の御声を聞き、神と交わり、神を知ること

聖書を学ぶにあたって

◆大切な3つのこと

《2》聖書全体のストーリーを理解する

- 聖書は永遠の神から人間にあてられたメッセージ
- 聖書は人類の歴史を罪の支配と神の支配の2つの視点から観察している
- 歴史の背後にある神のご計画が「約束とその成就」という視点から描かれている
- 選民イスラエルを祝福の基とする神の国回復のストーリー

聖書を学ぶにあたって

◆大切な3つのこと

《3》3つのテーマを軸に聖書を読む

①神の国

②契約

③キリスト

聖書全体のストーリーが、より立体的に見えてくる！

聖書を学ぶにあたって

◆「神の国」

- 神の国とは、神の支配、統治、主権が及ぶところ

神の愛、聖さ、義が現され、平安と喜びが満ち溢れる場所 † ロマ14:17

- 聖書は創世記から黙示録まで、神の国とその回復、完成を語っている

- ①「エデンの園」から始まった地上の神の国の歴史
- ②主イエス・キリストの宣教のテーマ † マルコ1:15, 使1:3
- ③聖霊に満たされた使徒たちの宣教のテーマ † 使28:31

聖書を学ぶにあたって

◆「契約」

- 聖書は全能の神が人との間に結ばれた契約の書
- 旧約とは古い契約、新約とは新しい契約の意
旧約はキリスト以前の契約、新約はキリストによる契約
- 聖書は創世記から黙示録まで、契約の中で展開していく
旧約聖書・・・天地創造の契約、アダム契約、ノア契約、アブラハム契約、モーセ契約、モアブ(パレスチナ)契約、ダビデ契約、「新しい契約」の預言

聖書を学ぶにあたって

◆「契約」

- 聖書は創世記から黙示録まで、契約の中で展開していく

新約聖書・・・キリストによる「新しい契約」

- イスラエル・ユダヤ人に対する民族全体の救い、祝福と土地の回復の約束
- 信仰によるアブラハムの子孫(異邦人クリスチャン)に対する救いの約束

※救い: イエスを信じる者は罪赦され、永遠の命を受けること

- 契約の内容

旧約・新約ともに一貫して恵みと信仰による救いが約束されている

聖書を学ぶにあたって

◆「契約」

- 契約（約束）の成就

御子イエス・キリストの十字架の死と復活 十ヨハ19:28-30,

聖書を学ぶにあたって

◆「キリスト」

- キリストは聖書の最大のテーマである 十ヨハ 5:39, ルカ24:27
聖書のすべての書がキリストについて語っており、歴史はキリストに向かって集約する 十創3:15, エペ¹:10
- 救い主であり、信仰の創始者・完成者 十ヘブ12:2
- 「契約」の成就者であり、「神の国」の完成者
- 聖書に見るキリスト
聖書に描かれている「キリスト」を知る(見る)ことで、3大テーマについての理解がより一層深まる

第1課 聖書

◆聖書は比類なき「神のことば」、人類に宛てられた神からの「ラブレター」

十ヨハ3:16、イザ43:1~6

◆聖書概要

①目的 ●キリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせる

十 II テモ3:15, ヨハ20:31

●良い働きにふさわしく整える 十 II テモ3:16~17

②著者 神の靈感により動かされた40人余の記者 (異なる時代・身分・地域)

十 II テモ3:16, II ペテ1:21 → **真の著者**は『神』

③執筆時期

前1500年頃~100年頃

第1課 聖書

④書かれた言語

旧約聖書:ヘブル語(一部はアラム語)

新約聖書:ギリシヤ語 ※現在は2千以上の言語に翻訳

⑤構成とテーマ

・旧約(39巻)・・・イエス・キリストを示す影 †ヘブ10:1, コロ2:16~17

・新約(27巻)・・・旧約聖書の成就 †マタ5:17~18, ルカ24:27,44, ヨハ5:39

全66巻を通じた中心テーマは、イエス・キリスト †ヨハ5:39

※66巻の書名と区分(共通性による分類)については、次頁のとおり

第1課 聖書

◆旧約聖書

律法の書(5)	創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記
歴史書(12)	ヨシュア記、士師記、ルツ記、サムエル記(第Ⅰ,第Ⅱ)、列王記(第Ⅰ,第Ⅱ)、歴代誌(第Ⅰ,第Ⅱ)、エズラ記、ネヘミヤ記、エステル記
諸書(5)[詩歌]	ヨブ記、詩篇、箴言、伝道者の書、雅歌
預言書(17)	イザヤ書、エレミヤ書、哀歌、エゼキエル書、ダニエル書、ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデヤ書、ヨナ書、ミカ書、ナホム書、ハバクク書、ゼパニヤ書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書

第1課 聖書

◆新約聖書

福音書(4)	マタイの福音書、マルコの福音書、ルカの福音書、ヨハネの福音書
使徒の働き(1)	使徒の働き
手紙(21)	ローマ人への手紙、コリント人への手紙(第Ⅰ,第Ⅱ)、ガラテヤ人への手紙、エペソ人への手紙、ピリピ人への手紙、コロサイ人への手紙、テサロニケ人への手紙(第Ⅰ,第Ⅱ)、テモテへの手紙(第Ⅰ,第Ⅱ)、テトスへの手紙、ピレモンへの手紙 [以上、パウロ書簡]、ヘブル人への手紙、ヤコブの手紙、ペテロの手紙(第Ⅰ,第Ⅱ)、ヨハネの手紙(第Ⅰ,第Ⅱ,第Ⅲ)、ユダの手紙 [以上、共同書簡]
ヨハネの黙示録(1)	ヨハネの黙示録

第1課 聖書

⑥ 神様のご計画と聖書

旧約・新約の「約」は、神が人と結ばれた『**契約**』を表している（聖書は「契約」の書）

人類の歴史は、神のご計画（御心）に沿って契約の更新という形で流れてきた。

そして、今やイエス・キリストによって「**新しい契約**」が提示された。

- 古い契約: 律法といけにえによる罪からの清めと祝福
歴史上の人物を通して与えられ、継承されてきた。
アダム → アブラハム → モーセ → ダビデ
- 新しい契約: イエス・キリストに対する信仰による罪からの完全な贖いと永遠の命
イエス・キリスト（十字架の死と復活）によってもたらされた。

[注] 旧約（古い契約）は、廃れた、失効した、新約に取って代わられたことを意味するものではない。単に契約の成立時期を歴史上のキリストを基準に時系列で区分した表現である。

第1課 聖書

◆聖書が誤りなき神の言葉であることの合理的証拠(比類なき特徴)

①聖書自身からの証拠

統一性・一貫性・調和／不変さ／イエス・キリストの証言／聖書記者の証言／預言の
的確さ／歴史的正確さ

②外的証拠

永遠のベストセラー／社会的影響力／聖書の強靱性／多くの人々の人生を造り
変えた現実

第1課 聖書

◆聖書を読もう！でも、どのように読めば？

①聖書は魂の糧

からだの健康を保つために毎日の食事が必要であるように、私たちの魂の成長と救いに「みことば」が不可欠 Ⅰ ペテロ2:2, マタイ4:4

②聖書を読むときの心構え

- 自分への神からの直接の語りかけとして
聖書を読むことは神の声を「聞くこと」
- 生まれたばかりの乳飲み子のように
素直に信じてむさぼるように(熱心に)

第1課 聖書

③具体的な読み方の例

- 毎日、規則正しく(習慣付ける)、計画的に読む
- ノートを取りながら読む
- 章単位で読む(前後関係、文脈で読むのが大切)
- 分からなくても、そのまま読み進む
- 偏りなく、好き嫌いなく読む(通読を心掛ける)

バランス良く、つまみ食いはNO

- 繰り返し読み、暗誦する(心に蓄える)

血肉とする(自分のものにする)† 詩篇1:2, 詩119:11, 申命記6:6, ヨシュア1:8

第1課 聖書

◆有名人の聖書観

アイザック・ニュートン

いかなる世界の歴史におけるよりも聖書の中には、より確かな真理がある。

ゲーテ

私が獄につながれ、ただ一冊の本を持ち込むことを許されるとしたら私は聖書を選ぶ。

マハトマ・ガンジー

私の生涯に最も深い影響を与えた書物は聖書である。

アブラハム・リンカーン

聖書は、神が人間に賜った最も素晴らしい賜物である。人間にとって望ましいものはすべて聖書にある。

第1課 聖書

ナポレオン

聖書はただの書物ではない。それに反対するすべてのものを征服する力を持つ生き物である。

ヘレン・ケラー

私が毎日、もっとも愛読する書物、それは聖書です。私の辞書に“悲惨”という文字はありません。聖書はダイナミックな力であり、変わることのない理想を示すものです。

第2課 真実の神

◆神の存在と神の探究

●無神論がはびこる現代社会

①世の中は科学で全部説明できる、だから神など存在しない。

【唯物論的無神論】

②学問や科学技術が発達した現代に神など必要ない。

【人間中心的無神論】

- 一方で、「進歩・便利・物質的豊かさ ≠ 幸福・平和・精神的豊かさ」
- 人間の叡智では解明できない部分に『答え』があるのではないか。
- 神の存在を云々する以前に、どのような『神』なのかを知らなければ、『信じる』ことはできない。

第2課 真実の神

◆『本当の神』と『偽りの神』

- 人間に神の真贋を判断する資格はない。
- 真実の神か否かを判別する基準
 - ①人間にとって都合の良い(人間のための神)存在でないこと
 - ②人間の知恵や理解を超えている(超自然的な)存在であること
 - ③宇宙や人間などの存在理由や意義が明らかにされていること

第2課 真実の神

◆聖書が教える、真実の神とは

●真の神の三つの特徴(“キリスト教の神”を知る重要ポイント)

①創造の神である。

命の根源、無から有を生み出す存在の根源、世界の中心

②三位一体の神である。

唯一の神でありながら、父と子と聖霊の三つの人格を持った存在
相互に対話できる、交わりの神

③人間の罪を裁く聖い神である(人間にとって都合の悪い神)。

神への畏敬、良心、道徳性を神の国統治の秩序とされるお方

第2課 眞実の神

◆聖書が教える、眞実の神とは

●神のご性質・お姿

- ①霊なる神(人格をもつ神) †ヨハ4:24
- ②唯一なる創造の神、自立・自存の神 † I コリ8:4, 申6:4, 出エ3:14
- ③いのちの神 † I ヨハ5:11-13, ヨハ14:6
- ④永遠・不変・無限・偏在の神 †創21:33、ヤコ1:17、エレ23:24, エヘ^o4:6
- ⑤全知・全能の神 † I サム2:3、マタ19:26
- ⑥聖く義しい神 † I ヨハ1:9, 申10:17-18, イザ^o6:3
- ⑦愛の神(恵みと祝福の神) †ヨハ3:16, I ヨハ4:8, イザ^o49:15

第2課 真実の神

◆どうしたら真実の神を知ることができるのか？

- 神のことば(聖書)によって／Ⅱテモ3:15-17, イザ³⁴:16, ロマ10:17
- 御子キリストによって〔人として歩まれた生涯、その十字架の死と復活〕
†ヘブ¹:1-3, ヨハ1:1-14, ロマ5:8, Iヨハ5:20, ヨハ14:9
- 神との愛の交わり(祈り)によって／†Iヨハ4:7-8
- 神を知る人(あかし)によって／†使10:42
- 聖霊(もう一人の助け主)によって
†ヨハ14:26, ヨハ15:26, エペ¹:17-19, Iコリ2:10-11
- 被造物によって〔存在と命の根源〕／†Iコリ8:6, 詩19:1-4, ロマ1:18-20
- 御業(しるしと奇跡)によって／†ヨハ9:1-41, ヨハ10:24-25, 32, 37-38, マル2:1-12

第2課 真実の神

◆神を知ろう

●神について知ることと、神を知ること

神について知っていても、神を知っているとは限らない。

神を知るとは、神について知ることではなく、神を体験的に知ること

りんごの香りや甘さ・美味しさは、頭では分からない。近づいて手に取り味わうまでは

●人格をもつ神を知るためには、心と心の触れ合い(交流)が不可欠

●神は私たち人間と心の交流を求めておられる 十ホセ6:6

●私たちのすべてを知っておられる神をより深く知っていこう!! □ 十ホセ6:3

その人のことを深く知るためには、長い時間を一緒に過ごし、会話によって

心を通わせ合うことが大切 ➡ □ 心の目を神に向け、神を求めよう! □ 十詩27:8, エレ29:13

第3課 人間

◆人間とはどんな存在なのか？

- 何故生まれ、何のために生き、死後どこへ行くのか
- 人生の意味と目的を問い続ける人間
- 科学では解明できない生命の不思議と人間の「生の目的」

◆聖書は何と言っているか？

- 神が人を創造された。
- 人は偶然の産物ではない(ダーウィンの進化論を否定)
- 人間は神のご計画(ご意志)のうちに生まれた存在

第3課 人間

◆人はどのように造られたのか

- 天地万物の創造の御業の最終日(6日目)・・・創造の業の締めくくりとして
- 神の「かたち」に似せて造られた 十創1:27
- いのちの息を吹き込まれ、「生きもの」となった 十創2:7

◆神のかたちとは

- 神は目に見えないお方、であるなら目に見えない「かたち」とは何か？
- 神との共通点を探してみよう。
- 神は霊なるお方だから、人も霊的な存在

第3課 人間

- ◆霊的な存在とは(目に見えない神のかたち) † 創1:26-27
 - 理性と道徳性 † コロ3:10, エヘ^o4:24
 - 自由意思と自意識 † 創3:5
 - 人格(知性・感情・意志)を持つ存在

第3課 人間

◆人間は何のために生まれたのか？ 十創1

- 創造の御業で最後に造られたのが人であった。
- 人間以外の全被造物は、人のために創造された。
- 神は人を創造された後、人を祝福された。
- 地上に増え広がり、全被造物を支配・管理する役割を与えられた。十創1:28
- 神は全被造物を見て、良しとされた。

第3課 人間

◆聖書が示す人間の存在目的

- 神の最高の傑作品として創造主の栄光を示すため †イザ⁴³:7
- 神と交わり、神とともに歩み、神のために生きるため
† II コリ5:14-15, ヒ¹:21, I コリ10:31

第3課 人間

◆ 罪と墮落

- 一つの疑問

このように神に望まれて生まれた人間が、今日どうして苦しみながら生きているのか？

- 人類の祖先にしのびよった罪の誘惑

◆ 罪とは的外れ

- 的とは本来の人間のあるべき生き方

- 的外れな生き方とは、自己中心・人間中心の生き方、神に背を向けた生き方

第3課 人間

◆墮落した人間の末路 十創3

- 神との断絶
- 女には出産の苦しみと夫への隷属
- 男には食を得るための苦しみ
- 「われわれのひとり」のようになり、善悪を知るようになった。

神に対抗する存在として振舞うようになった。

- 永遠の死

第3課 人間

◆ 罪の奴隷と化した人間

- もはや自分では自分を救えない
- 神との関係を阻む「罪」の力
- 罪の前に無力な人間
- 人間に救いはあるのか
- 救いがあるとしたら、どこから来るのか

◆ 愛と赦しの神の御子 イエス・キリストの誕生

神の人類救済計画、身代わりの死による救いの完成

第4課 救い主イエス・キリスト

◆神から遠く離れた(神に背を向けた)人生がもたらすもの

- 失った神との交わり † ヨブ²³:8-9, イザ⁵⁹:2
- 罪に満ちるこの世の暗さ、冷える愛 † ロマ¹:18-32, ロマ³:10-18
- 生きがいを失い、迷い苦悩する人間(迷える子羊) † イザ⁵³:6
- 金・物・一時的な快樂に走る人間の哀れな姿 † ヨハ⁸:34
- 神以外のものを神とする(偶像を造る)愚かな姿 † コロ³:5-7
- 死と恐怖に怯える人間の姿 † イザ⁵⁷:21

これらが不幸な状態だとするなら・・・

第4課 救い主イエス・キリスト

◆この不幸な状態から脱するには

- 方向転換する(生き方を改める)・・・罪から離れ、神のために生きる
- しかし、人は生まれながらにして罪人(報いとして既に肉体の死を背負っている)

十 ㊦3:23

- 自分の力では罪を拭い去ることはできない
- 罪は神と人との関係を遮断するもので、人間側の思いや努力だけでは関係回復できない。神の赦しが必要
- その前提として悔い改めと信仰を神に告白することが不可欠 十 ㊦10:32-33

第4課 救い主イエス・キリスト

◆開かれた赦し(救い)の道

- 聖書に記された約束・・・救い主の出現 † イザ⁷:14, ミカ⁵:2, イザ¹¹:1-10

イエスが神から遣わされた真の救い主であることの証

- イエス・キリストの人としての歩み(誕生から死まで)・・・預言の成就 † イザ⁵³

人間の模範として歩み、人間の身代わりとなられるためには、罪のない神ご自身が人となってくださらなければならなかった。

- 十字架での身代わりの死と復活 † ロマ⁴:25, イザ⁵³:5-6, I コリ¹⁵:2-4

人類の罪をただひとり罪のない方が代わりに背負われ、受けるべき罰を代わりにお受けになった。だから罪人が罪を悔い改め、この方を受け入れるなら神から赦しが与えられ、永遠の命が授けられる。

第4課 救い主イエス・キリスト

◆イエス・キリストによりもたらされた救い

- 神との交わり・平和・和解(関係回復) † ロマ5:1
- 罪の赦し(清め・解放) † Iヨハ1:7, Iペ1:7
- すべての傷からの癒し(心とからだ) † イザ61:1-3
- 永遠の命(復活の命) † ロマ6:23, ヨハ3:16

◆救いは神の御心(愛)、ご計画によるものであり、賜物(恵み)です！

† Iヨハ4:9-10, Iペ2:8-9

第4課 救い主イエス・キリスト

- ◆救われるために必要なステップ(祈りの中で個人的な救い主として受け入れよう)
 - 神の前に進み出て、心を開こう(祈りの姿勢を取り) † 黙3:20
 - 自分が罪人であることを認め、 † Iヨハ1:8-10
 - キリストは自分の罪の赦しのため十字架で死に、3日目によみがえられた生ける神の御子であると心に信じ、イエスこそ主であると口で告白しよう
† ロマ6:6, ロマ10:9-10, Iコリ12:3
 - 生涯を通じ神(御言葉)に信頼し、聖霊によって歩む決意を表し、
 - 最後に、「イエス・キリストの御名によって、アーメン」と結ぼう

第5課 教会

◆教会とは

- 単に屋根に十字架がある建物だけを指すものではない。
- キリストの名のもとに召し集められた者たち(ギリシャ語「エクレシア」)を表している。即ちクリスチャンの集まりを意味している。
- 聖書では「キリストのからだ」とも呼ばれている。†エペ1:23, †コリ12:27

第5課 教会

◆教会の二つの側面

- 目に見えない教会 十エペ3:15, コリ12:13

普遍的な教会、天的(宇宙的)な教会

- 目に見える教会 十使2:42-47

地上にあって奮闘する教会、地方教会、制度的な教会

第5課 教会

◆教会の成立と発展

- イエスによる教会設立宣言“この岩の上にわたしの教会を建てる”十マタ16:18
- イエスを神の御子キリスト(救い主)とする信仰が教会の基盤
- 5旬節の出来事(聖霊のバプテスマ)を契機に宣教が拡大 十使2
 - 迫害の中も信者は増大、やがて西洋の発展とともに世界へ急拡大

◆教会の使命

- 礼拝と祈り……神との交わり(神への愛)
- 交わりと奉仕……人との交わり(隣人への愛)
- 宣教……弟子養成と御国拡張(大命令への応答)

第5課 教会

◆教会とキリストとの関係

●3つの例えから見える、教会の姿

①教会は建物、その土台はキリスト Ⅰコリ4:16、マタ16:12-18

材料同士は固く組み合わされ、建物全体は揺るぎない基礎に据え付けられる。

②教会はキリストのからだ、そのかしらはキリスト Ⅰコリ12:12-28

各器官は有機的に結びつき、脳が効率的に指令を出し、からだ全体をコントロールする。

③教会は花嫁、その花婿はキリスト Ⅰコリ5:22-32

夫は妻を愛し、妻は夫を敬い従う。一心同体の美しい愛の関係

第5課 教会

◆教会の一員となるには

地方教会の一員となるためには、悔い改めにより罪の赦しを受けた者が、キリストとキリストのからだである教会(兄弟姉妹)を愛し、教会に連なり、生涯教会と共にキリストに従い歩いていく決意を神と人との前で表明する儀式(典礼)である『**洗礼式**』に与る必要があります。

◆プロテスタント教会の2つの典礼

①洗礼式 十マタ3:13-17

- クリスチャン人生のスタート時に1回のみ。
- 水をはった洗礼槽に全身を水面下に浸した後、起き上がる。
- 司式者(牧師)は傍らに立ち、祈りを捧げた後、手を添え介助をする。
- キリストの死と復活を象徴し、古い自分に死に、新しい自分によみがえるという意義がある。

第5課 教会

◆プロテスタント教会の2つの典礼

②聖餐式 十コリ11::23-29

- 教派・教団・教会により頻度は異なるが、TLCでは奇数月の第一聖日に行われている。
- パン小片と小杯に小分けされたぶどう酒(実際はぶどうジュース)が信者一人ひとりに配られ、司式者の意義を説くメッセージの後、一斉に口にする。
- パンとぶどう酒は、それぞれイエス・キリストが十字架上で引き裂かれたからだ、流された血潮を象徴し、それらを兄弟姉妹が共に食することは、同じからだ、同じ血潮に与ることを意味する。また、互いに神の子どもとしての地位と神の家族の結束を確認するものである。さらに、主イエスの贖いの御業を感謝し、その恵みを称える儀式であり、繰り返し記念して行われるべきものとされている。

第5課 教会

◆教会に集う喜び(あなたにとって教会とは?)

- 天国の前味を味わえる所
- 地上における戦いの前線基地
- 神の家族のマイホーム
- 祈りの家、神様との特別な出会うの場所
- 聖餐式の恵みに与る場所
- 洗礼式の喜びを共有できる場所
- 信仰生活の5原則を一度に実践できるところ
- 心おきなく神様を礼拝、賛美できる場所
- 神様が臨在され、とこしえのいのちの祝福を注がれる場所 etc

第6課 聖霊

◆聖霊とは

- 何かのエネルギーか、幽霊のようなものか？
- 物質・物体ではなく、人格を持っておられる。
- 三位一体なる神の一位格(人格)であられる。
- 霊なる存在で、神の本質・属性をすべて満たすお方
- 唯一真の神ご自身であられる。

第6課 聖霊

◆聖霊の特徴

- もう一人の助け主と呼ばれている。†ヨハ14:16
- 霊であるから、時間・空間に縛られないお方である。
- 父なる神、御子イエス・キリストとともに御業をなされる。
- 父なる神の名により、御子イエス・キリストから遣わされている。

第6課 聖霊

◆聖霊のお名前

聖霊は多様な名前では呼ばれている。それぞれは聖霊の特徴的な働きやそこにおける父なる神、御子キリストとの一体性、秩序を物語っている。

- いのちの御霊 十ロマ8:2
- 栄光の御霊 十ペテ4:14
- 神である主の霊 十イザ61:1
- 神の霊 十創1:2
- 聖い御霊 十ロマ1:4
- キリストの御霊 十ロマ8:9
- 子としてくださる御霊 十ロマ8:15
- 真理の御霊 十ヨハ14:17
- 聖霊 十詩51:11
- 助け主 十ヨハ14:16,26
- 父の御霊 十マタ10:20
- とこしえの御霊 十ヘブ9:14
- 御子の御霊 十ガラ4:6
- わたしの御霊 十創6:3

第6課 聖霊

◆聖霊のお名前(続き)

- 知恵と啓示の御霊 十エペ1:17
- 約束の聖霊 十エペ1:13
- 神の御霊 十コリ2:11-12,14

第6課 聖霊

◆聖霊の働き

- 私たちが神の子どもであることをあかししてくださる。†ロマ8:15-16
- 「イエスは主です。」と告白させてくださる。†コリ12:3
- 神、イエス・キリストについてあかししてくださる。†コリ2:9-11, ヨハ15:26-27
- 私たちにキリストの証人となる力を与えてくださる。†使1:8, 1コリ2:4
- すべての真理に導く。†ヨハ16:13, ヨハ14:17
- 御霊の賜物を授ける。†コリ12:3-11
- 御霊の実を結ばせる。†ガラ5:22-23
- 人に罪を認めさせる。†ヨハ16:8-11
- 油を注ぐ。†マタ3:16, 1ヨハ2:20, 27

第6課 聖霊

◆聖霊の働き(続き)

- 内住する。†ロマ8:11
- 新しく生まれさせる。†ヨハ3:3-5
- 神の御心に従って、聖徒のためにとりなして下さる。†ロマ8:26-27
- 喜びを与える。†ロマ14:17
- イエスの栄光を現す。†ヨハ16:14
- すべてのことを教え、イエスのことばを思い起こさせて下さる。
†ヨハ16:15
- いつまでも私たちと、ともにいて下さる。†ヨハ14:16-17
- すべての信者をキリストのからだに属する者として結び合せる。†コリ12:13

第6課 聖霊

◆聖霊の働き(続き)

- 新しく生まれさせる。
- 神の御心に従って、聖徒のためにとりなして下さる。
- 喜びを与える。
- イエスの栄光を現す。
- すべてのことを教え、イエスのことばを思い起こさせて下さる。
- いつまでも私たちと、ともにいて下さる。

第6課 聖霊

◆聖霊とともに、御霊によって歩もう！ †ガラ5:16-26

- 聖霊の助けなしでは生きて行けないことを知ろう。
- なぜなら、御霊によって生まれた者だから。†ヨハ3:1-5
- 私たちは聖霊をお宿しする聖霊の宮である。†コリ6:19
- いつも、どこにいても共にいてくださる方こそ、信頼できるお方
- 御霊によって1日を始め、御霊によって1日を終わることを習慣付けよう。
- 聖霊に満たされながら歩むということは、自分を器に例えれば「聖霊が注がれやすいように自分の肉由来のものは何も入れず、ただ口を大きく神様に向け、仰ぎ続けること」。聖霊の働きを押しとどめないよう罪の悔い改めと明け渡しが大切
- 神の御思いが満ち溢れた状態、これこそ御霊に満たされるということ

第7課 集会出席

- ◆「集会出席」はクリスチャン生活5原則の一つ
- ◆でも、なんとなく地味じゃない？「祈る」、「聖書を読む」に比べたらそんなに大事？
- ◆なぜ、私たちは集会に出席するのか？
 - 実は、集会は恵みの「宝庫」であるという点で、とても大切
 - なぜなら、クリスチャン生活5原則の全てがここで味わえるから。
 - さらに、「伝道・奉仕」や「献金」は、教会に通わないと味わえない恵みである。
 - 神はご自身の御業を「人」を介して助けられるお方である。
 - これを担うのが教会であり、「集会」である。
いわば、キリストのからだに最も活力に溢れる機会であり、場所である。

第7課 集会出席

◆なぜ、私たちは集会に出席するのか？（続き）

- 人間は一緒に集まる存在として造られたから。

人は一人で生きていくことができる存在ではない。†創2:18

人格と言葉が与えられ、神と、人とコミュニケーションし、一緒に生きるように造られた。†創1:28

- 人間に誰一人完全な者はいない。お互いの弱さを補完し合う関係を築くため。
- 他の場所では得られないとこしえのいのちの祝福が注がれる場所であるから。

†詩133:1~3

- キリストの名による集まりの中に神の臨在が約束されているから。†マタ18:20

- 集会(教会)を愛することは、キリストのからだ(キリストご自身)を愛することだから。

信仰生活とは教会生活である。信仰と教会とは互いに切り離せない存在である。

第7課 集会出席

◆教会における集会【TLCの例】

●聖日礼拝(主日礼拝) ※キリスト教会で最も代表的な集会

●水曜祈禱会

●水曜午前祈禱会

●CS(教会学校)

●ディスカバリー礼拝

●フィリピノ礼拝

●ユース祈禱会

●フロンティア

●救霊祈禱会 etc ※教会によって様々な集会プログラムが用意されています。

第7課 集会出席

◆集会プログラム（TLC聖日礼拝例）※教派・教会により様々な形式・方法があります。

- 準備賛美
- 開会挨拶と祈り
- 会衆賛美
- 代表賛美・祈り
- 週報報告、特別行事の案内等
- 献金（奨励と祈りを含む）
- メッセージ（牧師による聖書講話）
- 会衆賛美、応答の祈り・招き
- 頌栄（結びの賛美と祝祷）

第7課 集会出席

◆聖日礼拝出席の恵み

- 日曜日は週の冠である。

よみがえりの力に満たされ、勝利から一週間をスタートさせよう。

第一とすべきものを、最優先にすることで、生活や考え方に変化が生まれてくる。

- 魂とからだに休息を与え、靈的健康度を増進させてくれる。

魂とからだをリフレッシュし、パワーUPさせる。集会には、神が満ちておられる。 エペソ1:23

日曜日は安息日(神が定めた神を第一とする日)、イエスの復活記念日である。

礼拝出席を習慣化することで、生活にリズム感を生み出し、靈性を活性化させる。

第7課 集会出席

◆聖日礼拝出席の恵み(続き)

- 健全な信仰と麗しい教会を形成させる。

礼拝にはクリスチャン生活5原則の全てのエッセンスが溢れているので、信徒の成長（主と同じ姿に変えられる）をバランス良く促し教会をキリストの花嫁として麗しく整える働きがある。。

- 十字架が象徴する縦と横の関係を豊かに構築する。

十字架の恵みに与ることで、神が私たちに求めておられること(二つの大切な戒め)を実践できる場が教会(集会)である。

第7課 集会出席

◆だから、聖日礼拝(集会)出席を励行しよう！

- 聖書も集会出席(一緒に集まること)を奨励している。†ヘブル10:24
- 初代教会の成長と拡大の土台となった。†使2:42-47

第8課 祈り

◆祈りとは

- 祈りは、クリスチャンの『呼吸』と例えられている。

これは、祈りの意味を説明したものではなく、祈りがいかに大切であるかを表現したもの

- 人が呼吸を止めれば死ぬように、祈りを止めると霊的な死に繋がる。
- 神との会話、コミュニケーション、人格的な交流
- 神が罪によって断絶された人間との間に設けられた新たな交流手段
- 神に語りかけ、神の声を聞く行為

互いの意思(人間の願い・神の御旨)を示しあうことによって、人は神をより深く知り、神は人により深く関わろうとされる。

第8課 祈り

◆祈りがどんなに大切なものか、からだの健康と比較してみよう。

生命や健康維持のために必要なこと

霊	からだ
祈り	呼吸
聖書	食事
伝道・証・奉仕	運動
集会出席(礼拝・交わり)	休息・睡眠
献金	労働

※左側の5項目は、クリスチャン生活の5原則と呼ばれ、実り豊かな人生を送るための秘訣とされる。

第8課 祈り

◆祈りが大切なことはわかったけれど・・・

◆いつ・どこで・何を・どうやって祈ったらいいのか？

- いつ祈るか？ → 今でしょ！ いつでも祈るべき。＋ルカ18:1
- どこで祈るか？ → どこでもOK！ どこにでも神はおられるから。
- 何を祈るか？

祈りの中に必要な『4つの要素(ACTS)』を取り入れてみよう。

- ①賛美・崇拝(Adoration)・・・神の御名をたたえる。
- ②感謝(Thanksgiving)・・・神の恵みを感謝する。
- ③告白(Confession)・・・罪、無力を告白し、苦しみ・悩みを打ち明ける。
- ④願い(Supplication)・・・自分の願いを伝え、他の人々のためにとりなす。

第8課 祈り

◆どうやって祈るか？

- イエス様の『祈りの模範』を参考にしてみよう。

『だから、こう祈りなさい。…』(主の祈り／十マタイ6:9～13)

●主の祈りの構成

①呼びかけ《9節》…親しさと畏敬の念をもって

②神をあがめる三つの祈り《9～10節》

…神があがめられ、神のご支配が実現し、神の御心になるように

③人間の必要を願い求める三つの祈り《11～13節》

…日用の糧、罪の赦し、誘惑と悪からの救い

④結び・頌栄《13節》

第8課 祈り

◆どうやって祈るか？

●『4つの要素(ACTS)』と『主の祈り』を参考に、次の点も留意しよう。

①祈りの相手は基本的に父なる神であること

主の祈りは、「天にいます私たちの父よ」との呼びかけから始まる。

②祈りは三位一体なる神ご自身の親密な交わりの中に私たちを招き入れるものであること(三位一体の神のチームワーク)

祈りとは御霊によって、御子を通して、父なる神にささげられるものである。

③御子イエスの名によって祈ること

祈りの土台・基礎・根拠はキリストの贖いととりなしである。

第8課 祈り

◆どうやって祈るか？

●『4つの要素(ACTS)』と『主の祈り』を参考に、次の点も留意しよう。(続き)

④聖霊の導きに従って祈ること

内住される聖霊が私たちの祈りを神の御心に従って助けてくださる。

⑤信仰をもって祈ること

神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じながら。

⑥失望しないでたゆみなく祈ること

⑦へりくだりと悔い改めの心をもって祈ること

第8課 祈り

◆まとめ

神に祈るとき、特別な「技術」や「流暢さ」はいりません。

なぜなら、神は親密な「アバ父」であり、私のすべてをご存知だからです。神の前に何も飾る必要はなく、そのままの姿で神と向き合えばいいのです。自分の思いを素直に語りましょう、幼子のように。

そうすれば、神はあなたに語りかけられます。思い煩いは消え去り、神の平安があなたの心と思いを守ってくださいます。

神はあなたの素晴らしいカウンセラーとなります。

†ピリピ^o4:6-7

第9課 伝道・奉仕

◆伝道とは

神のことば(御心)をあまねく世に伝え、自らの救いの体験と、その後の生き様を示すことによって、人々にキリストを紹介して神の国へ誘う活動

◆奉仕とは

広義においては神に仕える(神に栄光を帰する)行為全般を言い、祈り、礼拝、伝道なども含まれる。

狭義においては主として教会員が神(教会)から委ねられた個々の務めを指して言う。

第9課 伝道・奉仕

◆伝道・奉仕はクリスチャンの霊的な運動

- クリスチャン生活5原則のひとつ
- 霊的健康を保つために欠かせない活動
- 御言葉の実践
- 頭でっかちな信仰でなく、強靱な骨格・からだ造りに有益(行いの伴う信仰)
- 成熟した大人、練達した働き人、主の弟子へ成長するため訓練

第9課 伝道・奉仕

◆伝道・奉仕の動機

- 失われゆく魂への情熱 †ルカ15:3-7,

自分に注がれた愛に対する抑えきれない神への感謝と喜びが救霊へと駆り立てる

- 主イエスの命令 †マタイ28:19-20, マタイ9:35-38

救われた者に命じられた大宣教命令(弟子養成命令)を果たそうとの使命感に燃えて

- キリストを待ち望む花嫁の心情 †エペ5:26-27

傷もしみもしわもない麗しいキリストの花嫁なる教会として整えられたいという、神(キリスト)への情熱的な愛に迫られて

- 隣人への愛 †ルカ10:26-37

大切な二つの戒めの一つである隣人愛に動かされて

第9課 伝道・奉仕

◆仕える者の姿勢

- ベースとなるのは『キリストのかおり』 Ⅱコリ2:15
- キリストのような人こそ、クリスチャンが目指す姿
- 目に見えない『かおり』を周囲に放つ(神が私達に望んでおられること)
 1. **喜び**をたたえている Ⅰテサ5:16
 2. **祈り心**をもっている Ⅰテサ5:17
 3. **感謝**を忘れない Ⅰテサ5:18
- このかおりに人々は魅せられ、引き寄せられていく

第9課 伝道・奉仕

◆聖書はクリスチャンをどのように表現しているか。

これらはみな伝道と奉仕を通じて形造られていく**キリストの品性(御姿)**を表している。

- キリストの僕、奴隷 十がら1:10, I コリ6:20
- キリストの手紙 十 II コリ3:3
- キリストのかおり 十 II コリ2:14-15
- 神の建物 十 I コリ3:9
- 神の畑 十 I コリ3:9
- 神の宮 十 I コリ3:16
- 聖霊の宮 十 I コリ6:19

第9課 伝道・奉仕

◆聖書はクリスチャンをどのように表現しているか(続き)

- よき兵士 Ⅰ テモ2:3-4
- 競争する者 Ⅰ ヘブ12:1-4, Ⅱ テモ2:5, 4:7-8
- ぶどうの枝 Ⅰ ヨハ15:5

第9課 伝道・奉仕

◆仕える者の日々の務め

- 私たちの毎日の歩みのすべては、ただ**キリストの栄光を表す**ためにある

† I コリ10:31

- 花嫁なる教会は花婿なるイエスと共に日々を、そして生涯を過ごす(天に召されるまで続く務め)。伝道・奉仕は**結婚生活**でもある。
 - 花婿なるキリストの愛に、花嫁なる教会は伝道と奉仕によって応える。
奉仕の力の源泉は、**キリストへの愛**にほかならない。
 - 教会には様々な奉仕がある。しかし、最も大切な奉仕は、神の前にぬかずき、御言葉に「**聞き入る**」ことである。†ルカ10:41-42, ロマ12:1-2

第10課 献金

◆献金とは

- 文字通り金銭を献(ささ)げること
- 『献』の由来

「献」は新字体、旧字体は「獻(右側が瓦ではなく犬)」

旧字体の左半分は「こしき」、「かなえ」と言い、容器の一種を表す漢字

2説あり、①犬の肉を容器に盛って神にお供えすること、②神に供え物をする際に、汚れを祓うために容器に犬の血を塗ったこと、に由来

何をささげるのかは別にして、「神」に対し金品を差し出すことに「献」が使われた。

- 辞書によれば

「ある目的に役立ててもらうように、金銭を差し出すこと。また、その金銭をいう。」

第10課 献金

◆世間一般の献金

- 政治献金、企業献金
- 似て非なるもの…募金

◆教会における献金

- キリスト教会の礼拝プログラムには必ず『献金』の時間がある。
- クリスチャンが欠かすことのできない神への礼拝行為

◆教会における献金とそれ以外の献金の違い

- 献金の対象…人(団体・事業など)か神か
- 献金の目的…見返りを求めるか否か。人の思惑か神の栄誉か

第10課 献金

◆お金の使い方

お金の使い方大切なポイントは、誰のために使うのかということと、その心

- 神(の栄光)のため → 献金
- 世のため、人のため → 施し、慈善(献金と同等の行為 十マタ25:40)
- 自分や家族のため → 世の欲(肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢)の
ために使うことへの警告 十 Iヨハ2:15-16, ヘブ13:5

第10課 献金

◆クリスチャンの金銭や献金に対する考え方

- とても大事なもの(宝)、生きるのに不可欠なもの(衣食住を支えるもの)
- もともと神様のものであって、人間に与えられた(委ねられた)もの
- 中性的なもの、それ自体善でも悪でもない。使う側の心に善と悪がある。

金銭はあらゆる悪の根、二人の主人(神と富)に仕えることはできない 十 I テモ6:10, マタ6:24

- スチュワードシップ(管理者責任)を養うために備えられた良き訓練(恵みのわざ)

すべてのものの所有者は神である。

良い忠実な僕(管理者)として預かったものを主人の益のために使う能力を養う。十 マタイ25:14-30

- 献金は種蒔き、宝を天に積む行為

豊かに蒔くものは豊かに刈り取る。十 II コリ9:6-12

第10課 献金

◆献金の意義

- 神への感謝と献身の表れ、礼拝そのもの
- 神のものを神にお返しする行為

すべての富の源泉は神にある。伝 5:19

- 神に献げるものであって、人や教会に献げるもの(会費・寄付金・入場料・聴講料)ではない。

【結論】

自分が大切にしているものを神に差し出すことによって、神こそ献げものに勝ってはるかに尊い存在であることを表す犠牲的な行為(献げることに痛みが伴うもの)

第10課 献金

◆教会における献金の種類、呼び方 ※教会によって種類、呼び方は様々です。

- 一般献金

聖日礼拝感謝献金、各種集会献金

- 什一献金 十マラ3:10

(あるいは十一献金、十分の一献金、月定献金、維持献金、聖別献金などと呼ばれる)

- 特別献金

感謝献金

イースター献金、クリスマス献金

会堂事業献金、海外宣教献金

指定献金

第10課 献金

◆献金の使われ方

神に献げられた金銭は教会(地上の神の国)に委ねられ、その管理のもと神の栄光と御国拡大のために用いられる。

●具体的には・・・

- 会堂、施設・設備等の維持管理
- 教会所有の土地・建物取得に要した借入金返済
- 牧師、教職者、教会事務職員等に対する給料
- 教会員に対する福利厚生
- 宣教活動、教育活動、各種イベント実施
- 海外宣教師、国内外のキリスト教関連団体への支援
- 教団所属の他教会に対する支援

第10課 献金

◆ 献げる者のあるべき姿勢

- 献げる動機(Why)・・・神と神の賜物への感謝と喜びに溢れて
- 献げる相手(Who)・・・人や教会(組織)ではなく、唯一の真なる神に
- 献げるもの(What)・・・金銭と同時にまず自分自身を
- 献げるとき(When)・・・神に感謝を表すときに合わせて、あらゆる機会を用いて
- 献げる場所(Where)・・・物理的な場所というより、状況に合わせて
- 献げる方法(How)・・・最上のものを聖別して(先に取り分けて)

上記5W1Hを意識して、豊かに蒔こう(献げよう)！

※「豊かに」とは、量や金額ではなく、喜んで(自発的に)、気前よく献げること

第10課 献金

◆献金の祝福

心からの献金は、神への感謝を生み出し、自分のみならず周囲の人々の人生にまで「豊かな実り」をもたらしてくれる。Ⅱコリ9:6-15

●喜び

人は意味あることのために失うのなら、喜ぶことができる。

失うことで得、貧しくなることで富む者となることを悟った喜び

†Ⅱコリ8:2

●真の礼拝

礼拝の本質(神の御心を知って自身をささげる。)へと導かれる。

†ロマ12:1-2, Ⅱコリ8:3-5

第10課 献金

◆献金の祝福

●キリストの御姿

キリストの貧しさが私たちを豊かにした。

私たちも献金(与えること)を通じてキリストに似た者とされてゆく。

Ⅱコリ8:9